



▲産地振興策として冬春キャベツの栽培に力を入れました。



▲抑制キュウリの作型からパッケージセンターが稼働



▲JA邑楽館林が表彰されたJA群馬県大会

昨年、現経営刷新3か年計画の最終年度の集大成として、第40回JA群馬県大会において県下唯一の優良組合表彰を受賞し、貯金高2,000億円の達成など大きな成果を上げる事ができました。組合員・利用者の皆様のご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

本年は第2期経営刷新3か年計画策定の年であります。前年までの計画の実績・内容を総括し「農業革新」「事業革新」「組織革新」「人と職場革新」の4つの基本戦略を念頭に、新たな重点

課題を設定し、特に組織の要である「人づくりビジョン」を大きな計画の柱として「地域社会との共生」を実現し、共感と協力の協働が広がる組織づくりに取り組んでまいります。

TPP問題や農協改革、農業・農政をめぐる情勢は苦難の連続ですが、JAは地域の発展に寄与し、組合員・利用者のために働く組織です。困難な時代に負けないよう皆様と共に歩んでまいりたいと思います。

結びに、皆様のご多幸とご繁栄を心よりご祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。

新年のご挨拶

～地域社会との共生～



邑楽館林農業協同組合
代表理事組合長 小池 清

新年あけましておめでとうございませう。

組合員および地域の皆様におかれましては、輝かしい新年をお迎えのことと謹んでお慶び申し上げます。

今年も申年です。実は動物の猿とは関係がなく、中国の農事歴の九番目にあたり「樹木の果実が熟して固まっっていく様子」を例えているそうです。

苦難を乗り越え成長する年であり、また、病や災難が去ると言われ、今までの努力が「実」を結ぶ年であるそうです。ぜひ、そのような年になつていただきたいものです。

さて、昨年の管内農業の情勢を見ると、平成27年産米については、8月以降の低温・日照不足から収穫量が減少し、作況指数は97となり集荷実績が28・3万俵と前年の88%に留まりました。

一方、価格については、加工用米や飼料用米の取組みにより主食用米の市場への流通抑制が図られ、需給のバランスが改善したことにより上昇傾向となっております。生産者の皆様には今後につ

きましても加工用米・飼料用米の生産にご協力をいただき、さらに、経営所得安定対策事業の加入により農業政策を十分に活用して経営の安定を図っていただきたいと思います。

また、園芸関係では気象状況の不安定から、市場への出荷量や市況が安定せず販売に苦慮した年となりました。そのような状況のなか、産地振興策として地元企業への出荷を目的とした「冬春キャベツ」の栽培がおこなわれました。市況に左右されない値決め販売によって安定的な所得を確保する、新たな露地野菜として57名の生産者が栽培に取り組んでいます。

また、全国有数の施設キュウリ産地である当地の面積維持は緊急な課題であり、抑制キュウリの作型から「パッケージセンター」を開設し、生産者の労働力軽減と消費者ニーズに合わせた袋詰め出荷を実施し、好調なスタートがされました。

いずれも始まったばかりの事業ですが「農業ビジョン」の確かな実践の一環としてさらに発展